

ぶいが谷のお酒

昔むかし、あるところに、よいじいさんと悪いじいさんがいました。あるとき、よいじいさんが山の中で木を切っていると、木を切るたびにふしぎな音がしました。

ぶいが

ぶいが谷に酒がわく



あんまり何度も聞こえるので、じいさんは、ぶいが谷に行ってみました。すると、谷に、お酒がいっぱいわきだしていました。ひと口飲んでみると、とてもおいしくて、夢中になつて飲むうちに、じいさんは、よつぱらつて眠つてしましました。

すると、どこからともなく、たくさんのさるが出てきました。さるたちは、

「おや、ここにお地蔵さまが寝ておられる。どこかにお祭りしようじやないか」と相談して、じいさんをかついでどんどん走つていきました。

走つていいくうちに、じいさんのきん玉がぶらりと下がりました。さるたちは、これを見て、

ぶらつと下がつた なあんじやい

といいました。じいさんは目をさまして、

お香のふくろ

とこたえました。またしばらく行くと、じいさんがおならをしました。さるたちは、

ぶうんと出たあ なんじやい

といいました。じいさんは、すぐに、

お香のにおい

とこたえました。

やがて、さるたちは、じいさんを下ろしてすわらせ、お地蔵さまのおそなえ物をいっぱいおそなえして行つてしましました。じいさんはそのおそなえ物を持って帰つて、村の人たちに配りました。

となりの悪いじいさんは、それを聞いて、自分もそんな目にあいたいと思つて、ぶいが谷に行きました。そして、お酒を飲んで寝ていると、さるがたくさんやつてきました。さるたちは、じいさんをかついでどんどん走つていきました。

そのうち、じいさんは、おならをぶつとしてしまいました。じいさんはおかしくてすくす笑いました。するとさるたちは、怒つて、

「またきのうのように、お地蔵さまのまねをして、おそなえものを取つていこうといんだな。悪いやつだ」と、よつてたかつて、じいさんをひつかきました。

ゆうがた、ばあさんが山へ迎えにいくと、遠くのほうからじいさんが帰つてくるのが見えました。ばあさんは、

(うちのじいさん、赤いきれいな着物をもらつてきたよ)と思つてよろこびました。ところが近づいてみると、かわいそうに、悪いじいさんはひつかききずで血だらけになつていましたとさ。

